

南 風

2016年1月 第15号

# みなみかぜ

発行 有秋南小学校区安心安全ネットワーク

問合せ 姉崎保健福祉センター ☎ 62-8601

## 南小安心安全ネットワーク規約 第3条

本会は、地域福祉活動を推進する団体や個人の連携により、その活動を相互に補完し、協働活動を通して地域課題を解決し、地域の価値を創出することを目的とする。

# 2016

## 明けましておめでとうございます！

宇宙科学など全くの門外漢だけれど、昨年末の金星探査機「あかつき」の金星周回軌道への再投入には手に汗を握った。

大宇宙・・・地球は自転により昼夜を繰り返して日を重ね、365.257日の公転周期で太陽を一周する。そして新しい一年が始まる。

### 私たちのまち

今、四人に一人が65才～74才の老人です

- \* 進行する人口減少
- \* 激減する現役世代
- \* 急増する孤独な高齢者

この先、10年後20年後を見据えて  
見守り・支え合い！—— (2p～3pへ)

### 冬の入浴 要注意

- ①入浴前、更衣室、浴室を温める
- ②湯温は41度以下、湯につかる時間は10分未満
- ③浴槽から急に立ち上がらない
- ④飲酒、食事直後は控える
- ⑤入浴する前に同居者に一声かける



### 見守りVR募集中

見守り訪問をお願いしたい方、  
お手伝いをしてみたい方  
見守り・支え合いの楽しさを  
体験しよう！

南小ネットワーク



**見守り・支え合いの必要な理由1**  
**\*見守り支援事業を始めました**  
**\*訪問活動を始めました**

**【経緯】**

一人暮らしの高齢者や障がい者の方々が日々安心して生活出来るよう、地域ボランティアの安心訪問員が定期的に見守り希望者宅を訪問し、声掛けや雑談を通して安否確認や様子の変化を早期に発見し適正に対応

一人暮らしの高齢者や障がい者の方々が日々安心して生活出来るよう、地域ボランティアの安心訪問員が定期的に見守り希望者宅を訪問し、声掛けや雑談を通して安否確認や様子の変化を早期に発見し適正に対応

安心訪問員は訪問活動の基礎的な知識を「基礎研修」で習得し市原市発行の訪問員証を携帯して、訪問活動を始めました。また訪問員は、訪問希望者宅になるべく近い二人がペアで当たること

にし、毎月1〜2回訪問をしています。

**【見守り希望者の様子】**

\*大抵の方は独居高齢者で、話し相手を欲している。  
 \*通院も有るが、地域の食事会や同好会に参加し、概してお元気でいる。

\*本活動に前向きで気持ちよく受け入れてもらえる。

**【見守り希望者の声】**

\*（玄関内で40分も長ばなし）何のお話でしょう？  
 \*偶然息子が帰省しています。（顔合わせして）共々よろしく願います。  
 \*安心訪問員さんのお宅の前を歩いてみました。近くて良かったです。  
 \*次の訪問を楽しみにしていますよ。・・・等々、訪問員として嬉しいお言葉を頂いています。

**【新しい展開に向けて】**

\*もっと安心訪問員を増員して、お隣さんを担当するようにしたい。  
 \*見守り対象者を掘り起し、落ちこぼれを無くしたい。

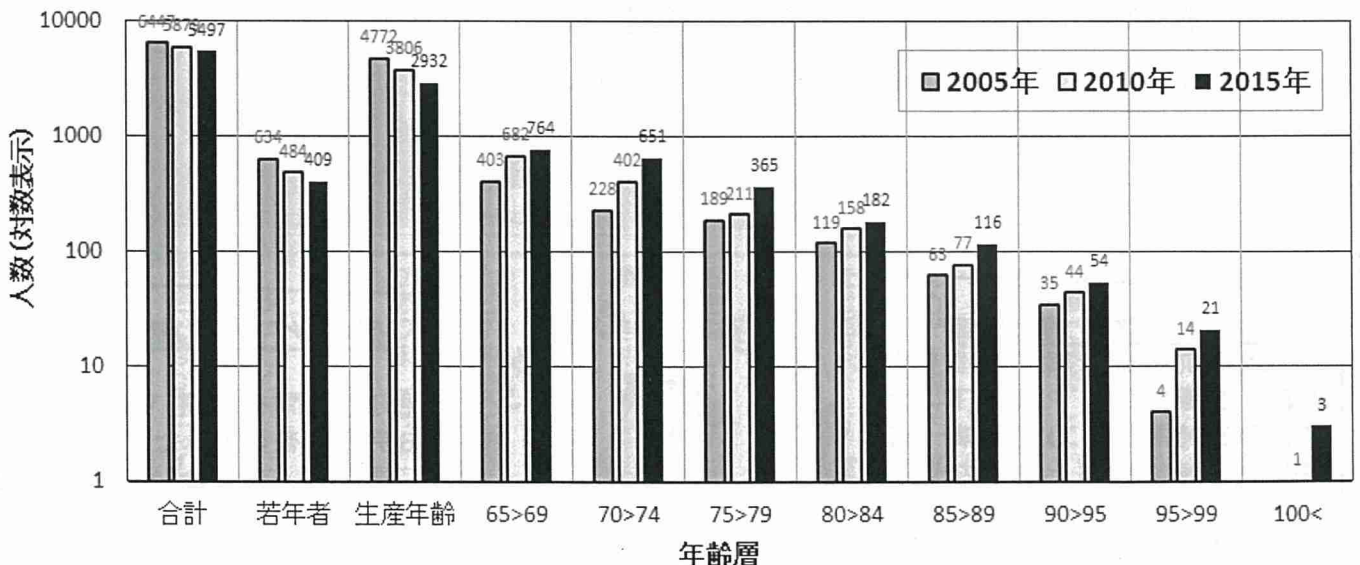
\*訪問活動の要領等検討の余地がある。  
 \*旧町会に於ける適切な対応策を検討したい。

\*行政、町会、各種ボランティア団体等との連携強化が必要である。  
 スタートしたばかりの活動で課題も多々ありますが、早く地域の方々に本活動の必要性を認識してもらい、全員参加で「支え合い・助け合いのまちづくり」を進めたいと考えています。

**【訪問員の紹介】**

安心訪問員です。よろしくお付き合い下さい。  
 （桜台）大森勲、悦喜昭夫、坂井真由美、片桐偉勝、原田美津子、小島弘子、野口良枝、鈴木節子、星野登志子、合原年子、田村幸津子、秋山絹子、岡田節子、堀野弘美、笹野哲郎  
 （椎の木台）合田祐二、岩崎キヌ工、東島光子、牧義行、関本三郎、奈良輪義男、山本知子、大津弘美、増山至、井倉健二

図一1 年齢層別の人口推移



見守り・支え合いの必要な理由2

**\* 進行する人口の減少**

**\* 急変する人口構成**

**・ 現役世代の急減**

**・ 老人の急増**

図-1は、南小校区地域の2005年から2015年までの「年齢層別の人口変化」を示すものです。この10年間で総人口は15%減少(950人減少)、14歳以下の年少者人口は39%の減少(220人減少)、15歳から64歳の生産年齢人口は39%の減少(1,840人減少)、そして65才以上の高齢者人口は107%と倍増(1,071人増加)しました。この高齢者の急激な増加と特に65歳から74歳の若い高齢者が多いことは当地の特徴です。

この結果、現在人口は5,500人、年少人口比率7%、生産年齢人口比率54%、高齢者比率39%(2015.9現在)となり、

市原市でも少子高齢化が進んだ地域となつています

14%(321世帯)、二人高齢者世帯が21%(497世帯)で合計35%となり、3世帯に1世帯が孤かな高齢者世帯となつています。(参照、平成27年5月、市保健福祉課資料より)。今後、高齢者世帯比率は、総人口が減少し高齢化が進む状況下では益々増えることとなります。

図-2 高齢者のみ世帯の推移

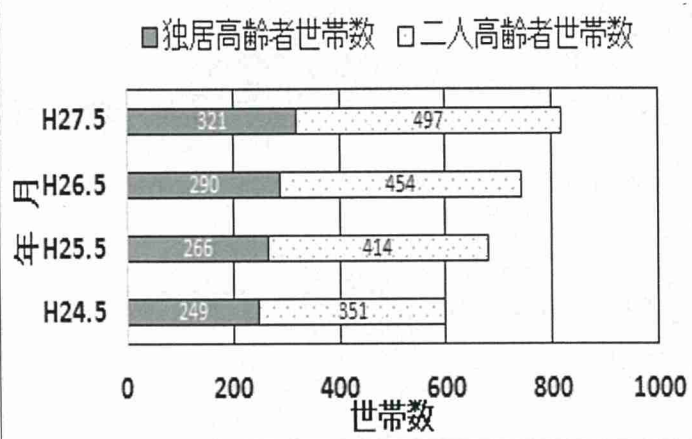


図-2は最近4年間の「高齢者のみの世帯数の変化」を示しますが、現在、独居高齢者世帯が全世帯の

以上、南小地域の人口動態データについて述べたが、桜台など住宅団地の開発が急速であつたことやそれが団塊世代の入居時期と重なつたこともあって、変化が急速で構成が偏つて

又このことが問題解決を困難にする要因となります。

人口の減少は、出生する子どもが少くないことによるが、近い将来には高齢者の大量自然死によることとなるでしょう。その「寂しい時代」をどう生き抜くか、一人ひとりにとつても難しい問題です。

これがこの地域の特徴であり

現役世代の減少は、生産性や活力低下をもたらすと共にこの世代の負担を増すこととなります。高齢者一人を支える現役世代の人数は一・三八人で市原市の二・三八人と比べても厳しい。この負担を皆で分かち合い、人口減・高齢化問題へ対処する必要があります。

地域の急変する人口動態データは何を意味するのか。一面的な視点ではあるが、厳しい人口問題を抱える我々住民は如何に向き合えば良いのでしょうか。

まず大切なことは、一人ひとりがこの現実を理解し、一人ひとりが又、一住民としての対応を考え早く行動に移すことだろう。間もなく迎える長い高齢期、高齢孤独期、近親者との離別期を元気で明るく楽しく乗りきるために。なお五木寛之さんの著書『嫌老社会を超えて』で「日本が嫌老社会の入り口にあることを自覚しなければ老人階級とその他の世代との階級闘争を

多々の方々社会的弱者の支援を行うボランティア活動を行っていますが、この活動の多くは行政の機能を補強する取り組みです。多様化する貧困・生活困窮への対応や「高齢世代中心」から「全世代型」への社会保障の転換など重要な課題が山積しています。行政任せでない地域参加の協働を進める必要があります。

小生もこの地に三十数年居住し、年齢も70才を越えました。この度、南小ネットワークが展開する「安心生活見守り支援事業」の安心訪問員として参加し、独居高齢者の訪問活動を始めました。

見守り・支え合いの必要な理由3

**\* 今を知る・明日を思う**

**\* 行政との協働を**

**\* 世代間交流**

**・ 対話で絆を**

進行する人口の減少、激減する現役世代、急増する孤独な高齢者など南小校区

次いで、この南小地域でも

この活動において、二回三回と訪問して会話を重ね、相互の理解が深まり絆が結ばれてゆく過程を経て、見守り・支え合いの素晴らしさと大切さを痛感しました。是非、この喜びを地域のそして隣組の皆さんと共有したいと思つています。(笹野)



**\*防災研修報告\***  
 一月十九日「ちば消防共同指令センター」と「千葉市消防航空隊」を訪問しました。「ちば消防共同指令センター」は、千葉県北部・南部の20消防本部が、119番通報の受信や出動指令等の消防指令業務を共同で運用することで、隣接市町村への応援や広域災害等の発生時において、迅速・的確な対応を期待し運用されています。「消防航空隊」では「ヘリコプター」の活用等興味深いお話を聞くことが出来ました。(S・T)



# CAMERA REPORT 防災研修 (写真; 土橋康夫氏撮影)



イベント案内 (2月~4月)			
月	日	曜	行事
2	4	木	南小学習参観
2	16	火	NW推進委員会
2	27	土	南小ありがとう集会
3	10	木	有秋中卒業式
3	15	火	NW推進委員会
3	18	金	南小卒業式
3	22	火	安心訪問員会議
3	29	火	南小離任式
4	7	木	有秋中入学式
4	8	金	南小入学式
4	19	火	NW定期総会

**編集後記**  
 今まで一年生一人と三年生三人であった徒歩登校班に三年生と五年生の兄弟が加わって六人組の徒歩登校班になった。それまで兄弟は車で登校していたが、一寸したきっかけで徒歩登校の楽しみ・面白味を感じたのか、友達と一緒に歩いて登校したいと両親に申し出たと云う。  
 この体制になってまだ日は浅いけれど、五年生の上級生はリーダーらしく、元班長はそのサブとして振る舞い自然に新しい「仲良し集団」が形成されました。しかしその過程で、一人ひとりの動きが微妙に変化していく様子は興味深いものがありました。これも子どもたちの成長のための良い糧となるものと思います。  
 走ったり転んだり、泣いたり笑ったり、時には小突き合いながらワイワイガヤガヤ学校へ行く。遠い昔を思いながらその後を追っています。(S・T)